

読者之声

☆ 其之巻

雑誌頼むさかいに送つてや

私は釜ヶ崎に住んでおるのではないのです。大阪に住んでおるのも近畿に住んでおるのでもないです。実は浜松に住んでおるのです。ここで私は映画好きな日「釜ヶ崎極道」という東映映画をみてしまったのです。それかうというものの一瞥いってみたいと思いつつ、ついにたどりついたのが、ある

金をためては釜ヶ崎がよいが始まったんです。そこをカメラを買っちゃいました。市価七万二千円のが三万六千円。性良バリン、パンサいの気分でありました。そういつた魅力もありますが、釜ヶ崎のいいところは、たむろしているおじさんたちの人のよさでありました。新聞に載る大阪の三面事件はたいてい西成区。しかしです。私がちよくちよくいつてみるかぎり、そんなことは思いもつきませ

『労務者渡世』編集委員会 (採否は当方で決定)

まったくこういつたことはないですが、少なくとも山谷と比べるに、そういつた感じはして愛着がもてます。ただ実際問題として労務者おじさんたちの老後が問題です。体制にうけられなかつた者たち

ちの悲劇です。アウトサイターたちのもっている一種のやさしさがつたわつてくる釜ヶ崎。その世界をもっと住みよくしたいかなくては。万世よ、ウツヘヘ、

静岡・浜松 矢吹平

ぐれと暮れはちがうのよ

——二号付録とつたもの訂正——

「御走番外地」の歌詞の一番二行目が次のように書いてあった。
酒まひけ酒まひけ
酒まひけ酒まひけ

ぐれでも日暮れのことなんかではない。やはり随分で、広く言えば普通じやない。求職に使う。ぐれる、ぐれ、ぐれたなど。だからキスぐれと云えば、飲んで泥酔してというようなことだ。またアル中ふうにいづも飲んでいる者のことを、キスぐれの誰々と呼んだりするのはいきなりのみならず、と云う。そしてあいつはぐれてるとか、ぐれんたいだとか言

投稿歓迎！ 歓迎！ 大歓迎！

《送り先》(郵便番号557-91) 西成郵便局私書箱第31号

手の声を聞く……。自分等の先輩諸氏の話を聴くと、昔の盛況は人情が有って団結が有って勇ましいなりに楽しい事も多かったらしい。私が知って居るだけでもかなりそれなりにまだ、それらしい気分が濃厚だった。

円前後で結構耐えた良き時代であった。それも今の新宮のカードの下附近が多に安定所附近で有る。

感の減退は、それに比例してハイカラになり背広にネクタイのアンコも出現する事となった。以前は雨の日に傘をさして歩く、「なんばあやう、アンコのくせにかざなんかさしやがて……」などと陰口をたたかれたりしたものでも有る。

百円程度だった頃で有らう。ドヤも個室などまで普及されず広い部屋に「カイコタナ」を並べて眠ったもの。だから余計に親近感も連帯感も強かったのかも知れない。三十五、六坪、四畳半の良かつた山田粗も、オーストラリアの第一次の暴動で親分の「ヤン」もすっかり落ち目になり、その残党も三、四年前迄は一耳に何回か寄見えたが今はまるきり……で有る。

十才の「モアンコ」が居た。非常に威勢が良く現像で「おっちゃん」と何処やねん」と聞くと「俺りや、俺り」と胸を張ってこれたもので有る。つまり露町の主としてスライドがその人生を賣きアンコになりたての私等新人をよく面創みしてくれたもので、今だに感謝している。そのモアンコが一杯のみやしみじみと語ってくれた。

「今でこそアンコの数が三千人を越えて居ると云はれるけれど俺の十六才の頃

は二十人たらずぜつた……」

おわび